

薬剤科の取り組み

東京都大規模ワクチン接種会場開設、運用への協力

看護部 部長 太田日出

万を持して2021年2月17日、新型コロナウイルス感染症対応ワクチン接種が始まった。医療従事者への接種から始まり、高齢者、ハイリスク疾患等を持つ人、希望する人へとその対象者が広がっていった。

2021年5月末、築地市場の跡地、オリンピックで使用する施設の一部を東京都大規模ワクチン接種会場として開設するにあたり、その運用等への協力要請を受けた。全く別目的の仮施設でのワクチン接種に一抹の不安を感じながら、アレルギー等への対応可能な救護室の設置、当センターでの経験を参考に、医師、看護師、事務員の配置等の運用を決めていった。当初は、アルコール綿やグローブと言った消耗品の不足や、救急カート等間に合わない物品の補充等への支援までを要し、医療施設以外でのワクチン接種という目的達成に、不安を膨らませてのスタートになった。同時に、日ごろの医療を支えて

いただいているSPDの皆さんや事務の皆さんへの感謝を深くした。

その後、様々な職場におけるワクチン接種が加速し、東京都は、都庁展望室や、代々木公園、行幸通り、大学構内等ワクチン接種会場の開設ラッシュとなった。

代々木公園での初日には、8月初旬の炎天下、雷注意報、大雨と大いに天気の影響を受け、野外ならではの貴重な体験をさせていただいた。

それぞれの会場では、コロナ禍で、業務の縮小を要していたJTBの皆さん、人材派遣会社から派遣される毎日違う看護師さんと、安全を担保して業務遂行していくために、それぞれの役割間の情報共有や、人材派遣会社にリーダー看護師の配置等を依頼し、各会場におけるチーム作りまで役割を果たした。

ワクチンは、厳格な温度管理を要し、1バイアルから6人分の接種が可能な

ファイザー社製をはじめ、それぞれ温度管理方法や、1バイアル当たりの対応人数の違うその他数社のワクチンを使用する会場もあった。1日何千人ものワクチン接種を円滑に進めるうえでは、薬剤師の方の支援が不可欠であった。

東京都ならではの取り組みとしては、歩行困難者へのドライブスルー方式(井の頭公園)や、老々介護現場対応の訪問接種方式等、希望する都民への公平なサービス提供を実現するために協力をさせていただいた。東京都からの依頼は、比較的急で、タイトな決定と実践を伴うことが多かったが、主任を中心に、調整の求められる場合には看護師長も含め派遣協力を行った。

新型コロナウイルス感染症に苦しむ患者を受け入れている病院であり、時には感染症で命を落とす患者を看取っている看護師にとって、ワクチン接種への協力は惜しまない姿勢が派遣の継続を支えてくれた。